

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所育ち 第2事業所		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月22日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	病院での経験を積んだPT/OT/STの専門職が在籍しているだけでなく、他療育施設や特別支援学校、保育の現場を経験しているスタッフも所属しているため、様々な角度でお子さんにあった支援プログラムを作成しております。また、保護者の困りごとに対してもLINEや電話などのツールを活用して迅速に対応できる体制を整えております。	小集団活動前には、保育士による活動のねらいや注意点等の情報共有を行い、全職員が活動に対する理解を深め、より良い支援を提供できるように工夫しております。また、活動後には必ず活動時のフィードバックを行い、お子さんの1人1人の細かな様子の情報共有を行い、次回の活動に生かせるように努めております。	日々の活動の様子を写真や動画で保護者と共有することで、保護者とお子さんが「できた」ことを共有し、「褒める材料の一助」に繋がるよう取り組んでおります。
2	療育開始時に、専門職によるお子さんの発達段階を正確に把握する為に、発達評価を実施し、よりお子さんの発達段階にあった支援を提供しております。また、定期的に再評価を行い、職員間で情報を共有し個別・小集団の活動内容も日々工夫しております。	専門職による評価をもとに、個別活動を実施し、お子さんに合わせた専門的な支援を行っております。また、小集団活動の中で保育士がお友達との関りや苦手としている事、得意としている事等を把握しお子さん1人1人に寄り添い、より良い支援の提供が出来るよう努めております。	外部講師による全職員への研修や専門職から保育士、児童指導員への研修を実施し、職員のスキルアップに努めております。
3	お子さんの苦手としていることに対して、職員が寄り添いながらスモールステップで活動に取り組んでおります。また、「できた」瞬間に立ち合い、「嬉しい」「楽しい」「もっとやりたい」等の自信や達成感、向上心に繋がるよう支援を行っております。	お子さんの気持ちの崩れや気持ちの切り替えの為、個別の部屋や場所が必要な場合は、使用できるよう環境設定を行っております。また、その日の状態に合わせて、お子さんの気持ちに寄り添いながら職員が個別の対応を行っております。	小集団活動では、専門士による個別活動の様子も取り入れ、活動内容に偏りが無いように工夫しております。また、

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	連絡ツールでは頻繁に関りがあるが、保護者と職員が直接関わる機会が少ない。	送迎が幼稚園や保育園等が多く、保護者の方と直接お会いする機会が少ない。	保護者との面談時に、小集団活動や個別活動の様子を見ていただき、活動を行っている職員との情報共有を行なえる時間を設けたいと考えております。
2	保護者同士の関りが少ない。	保護者座談会を設けているが、保護者の方のご予定と合わず参加が難しい方がいた。	年に1回保護者座談会を設けており、開催を周知し、より多くの方に参加をしていただけるようにお声掛けを行ってまいります。また、事業所内のお便りを使用し、座談会の様子等も周知しております。
3	地域との交流が少ない。	日程調整や実施場所の確保が難しく、交流の機会を設ける事に苦戦しておりました。	今年度初開催となる、事業所間交流を行い、普段関わることの出来ないお友達や職員、環境で活動を共に行うことを経験し、多くの人と「楽しい」「嬉しい」を共有することが出来ました。今後は、事業所間交流も継続しながら他事業所や地域の方々とも交流が深められるように、活動内容を検討してまいります。